


# えん罪救済センターNEWS No.12

## CONTENTS


えん罪という「間違い」を繰り返さない司法の実現に向けて（稲葉光行） .....	1
連載エッセイ「科学鑑定のチェックポイント～証拠資料の連鎖と DNA 型鑑定」（平岡義博） .....	3

えん罪救済センター Innocence Project Japan

 〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町 56-1


立命館大学 人間科学研究所気付

 URL: <http://www.ipjapan.org/>

 facebook:

<https://www.facebook.com/innocence.project.japan>

 Email: [ipj2015@outlook.com](mailto:ipj2015@outlook.com)

 Tel : 090-2101-0931

Fax: 075-466-3362

●第 12 号 2020年6月30日発行

(受付時間 9 : 00～17 : 30, 土日祝日を除く)

## えん罪という「間違い」を繰り返さない司法の実現に向けて

—支援した2つの事件の無罪判決確定を受けて—

稲葉光行（代表，立命館大学教授）

えん罪救済センター（Innocence Project Japan：IPJ）は、科学的・客観的証拠にもとづきえん罪被害者を支援し救済すること、そしてえん罪事件の再検証を通じて同じ間違いを繰り返さない司法を実現することを目指して、2016年4月に設立された。そして設立から約4年を経て、このたび、えん罪救済センターが支援した2つの事件の無罪判決が確定した。それに関わって「えん罪事件の速やかな救済とえん罪原因の検証システムの確立を求める声明—支援した2つの事件の無罪判決確定を受けて—」を2020年4月22日に発表した。以下ではその内容も踏まえ、改めてえん罪救済センターのスタンスと方針について述べたい。

支援した2つの事件の1つ目は、大阪高裁で無罪が確定した児童虐待のケースである。大阪高裁第3刑事部は、2020年1月28日、女兒の頭部に暴行を加えて死亡させたとして起訴され、一審で無罪判決を受けていた男性に対し、検察官の控訴を棄却して無罪を支持する判決を言い渡した。検察側は上告せず無罪判決が確定した。本件は、各地で無罪判決が相次いでいる「虐待による頭部外傷（Abusive Head Trauma: AHT）」が問題になった事件である。えん罪救済センターは、AHTや揺さぶられっこ症候群（SBS）について諸外国で医学的観点から議論が行われている現状を踏まえ、弁護活動に関わった。本件は、医学的証拠の背景となった科学理論の根拠や証言が問題とされた事件であり、司法判断における科学的証拠・客観的証拠の適正な扱いに関して重要な視点を提供するものである。本件の支援は、えん罪救済センターと連携する別のえん罪救済組織「SBS検証プロジェクト」の設立にもつながった。

もう一つの事件は、2020年3月31日に大津地裁が再審公判で無罪判決を言い渡し、検察官の控訴断念により無罪判決が確定した、いわゆる湖東記念病院事件である。

えん罪救済センターは2018年1月から本件を支援してきた。本件では、犯人とされた一人の女性が15年以上ものあいだ自由や尊厳を奪われた。しかも、警察の見込み捜査、供述弱者への配慮を欠いた取調べによる虚偽の自白、自白に依存した裁判所的事实認定、不十分な証拠開示（証拠隠し）、不適切な科学的証拠など、これまでえん罪の原因とされてきた要因がいくつも重なっていた。さらに再審請求段階で証拠開示制度がないことや、検察官による再審開始決定への抗告が認められていることによって、無罪判決までに非常に長い時間がかかり、司法による救済が大幅に遅れるという結果になった。

えん罪救済センターはこれまでも、無罪判決を言い渡すべき事件が迅速に救済される仕組みが必要であること、またそのための人的・制度的支援が不可欠であることを求めてきた。さらに、我々がなによりも強調してきたことは、法を司る人間の誤りをゼロにすることはできないとしても、航空機事故の際に行われる原因調査のように、司法判断の間違いやえん罪の原因を真摯に検証することで、同じ間違いを繰り返さない司法を目指すことの重要性である。我々は上記の2事件についても、えん罪原因を徹底的に調査し、同じ間違いを繰り返さない仕組み作りに取り組む必要があると考えている。

このような議論から、えん罪は一般の市民からは遠い世界で起きていることであり、司法関係者が取り組むべき問題だと思われるかもしれない。しかし、裁判員裁判制度の導入によって、司法の専門家ではない一般市民が刑事事件での司法判断に参加するようになった現在、一般市民がえん罪を生み出す当事者となる可能性も出てきたのである。従って、えん罪事件の発生原因を究明し、同じ原因によるえん罪を繰り返さないための改革を積み重ねることは、司法関係者だけでなく全ての市民にとっての責務である。

えん罪救済センターはこれからも、個々のえん罪事件の支援・弁護を通じてえん罪原因を明らかにし、過ちから学ぶことで、司法判断に対する社会全体としての見直しを促し、同じ過ちを繰り返さない司法の実現に向けた改革を促進する活動を続けていきたい。

## えん罪事件の速やかな救済とえん罪原因の検証システムの確立を求める声明

### ——支援した2つの事件の無罪判決確定を受けて——

えん罪救済センター(イノセンス・プロジェクト・ジャパン)は、刑事事件のえん罪の被害者を支援し救済すること、そしてえん罪事件の再検証を通じて公正・公平な司法を実現することを目指して2016年に設立されました。

このたび、えん罪救済センターが支援した2つの事件について無罪判決が確定しました。

大阪高裁第3刑事部は、2020年1月28日、女兒(事件当時1歳11か月)の頭部に暴行を加えて死亡させたとして起訴され、一審で無罪判決を受けていた男性に対し、検察官の控訴を棄却して無罪を支持する判決を言い渡しました。検察側は上告せず、無罪判決が確定しました。えん罪救済センターは一審段階から本件を支援し、弁護団に加わりまし  
本件は、いま各地で無罪判決が相次いでいる「虐待による頭部外傷(Abusive Head Trauma、AHT)」が問題になった事件です。えん罪救済センターはAHTやその一類型である揺さぶられっこ症候群(SBS)について、諸外国で医学的観点から議論が行われていることにも鑑み、本件に関わり弁護しました。本件の弁護活動は、その後、別のえん罪救済組織である「SBS 検証プロジェクト」の設立にもつながりました。本件では、医学的証拠の背後にある理論の科学的根拠や証言のあり方が問題になりました。

2020年3月31日には大津地裁がいわゆる湖東記念病院事件について、再審公判で無罪判決を言い渡しました。検察官は控訴を断念し、無罪判決が確定しました。

えん罪救済センターは、2018年1月から本件を支援してきました。

本件では、一人の女性が15年以上ものあいだ自由や尊厳を奪われました。それは、警察の見込み捜査、供述弱者への配慮を欠いた不当な取調べによる虚偽の自白、自白に依存した裁判所の事実認定、不十分な証拠開示(証拠隠し)、不適切な科学的証拠などの典型的といえるえん罪原因によるものでした。再審請求段階で証拠開示の制度がないことや検察官による再審開始決定への抗告が認められていることによって、無罪判決までに非常に長い時間がかかり、司法による救済が遅延するという結果になってしまいました。

えん罪救済センターは、無罪判決を言い渡すべき事件が迅速に救済されるシステムが必要であること、そのための人的・制度的支援が不可欠であることをこれまで求めてきました。我々がなによりも強調してきたことは、謙虚に司法の過ちと向き合って、えん罪事件を真摯に検証し、その教訓を刑事司法制度や運用の改善につなげることの必要性です。上記支援2事件についても、えん罪原因の公的調査が速やかに行われるべきです。

すべてのえん罪事件を多角的な視点から見直してえん罪の原因を明らかにし、その原因を除去するための制度改革を不断に積み重ねることは、司法関係者だけでなく、全ての市民の責務です。私たち一人ひとりがえん罪事件に学び、改革を実現していかなければなりません。

えん罪救済センターはこれからも、個別のえん罪事件の支援・弁護を通じてえん罪原因を明らかにし、過ちに学ぶことによって刑事司法の改革をすべく、活動を続けます。

以上



## 科学鑑定チェックポイント

### ～証拠資料の連鎖とDNA型鑑定

平岡 義博 (運営委員, 立命館大学客員教授)

#### 第1回 鑑定資料の連鎖 (上)

鑑定資料は、間違いなく事件現場から採取されたものでなければならない。そして鑑定資料は途中で混同したりしてはいけない。これは、鑑定以前の当たり前なことであるが、殺人事件など大きな事件になるほど守られない。鑑定資料の取違いや無関係なものが入り込めば、誤認逮捕や冤罪に発展するので、まずこの点をよくチェックする必要がある。

基本的には、鑑定資料は現場→鑑識課→科捜研の順にその流れが間違いなく1本の線につながっていることが原則である。これを管理の連鎖 (Chain of Custody : CoC) といい、生産物が生産地から消費者まで管理されるサプライチェーン管理などを意味するが、捜査では「証拠保全」ということになる。

このような問題は、鑑識課による現場資料採取、採取された鑑識資料の整理・保管、捜査本部からの鑑定資料の持込、科捜研での鑑定、返却資料の保管の各過程で生じる。このいずれかで証拠資料に混同や混入の疑いがあれば、事件に無関係な証拠物として排除されなければならない (関連性の喪失)。

#### 1. 鑑識課による現場資料採取

事件が警察に通報されて認知されれば、所轄警察署の鑑識係がまず現場に向かう。所轄署から要請があれば、警察本部の鑑識課機動鑑識隊が出動する。現場は立入禁止にされ、鑑識作業が終了するまで捜査員も立ち入れない。鑑識隊員は自らの毛髪・汗・唾液などDNA資料が現場に混入しないよう防護用具を装着する。隊長の指示により足こん跡・指紋・血液・微物などが発見され、その位置関係の計測、写真撮影などが行わ

れ、適正な方法で採取され清浄な容器に保管される。その容器には採取場所・日時・採取者・採取番号などが記載される。この手続きを証拠資料化措置という。このようなことが行われていない鑑識資料はその由来を証明できないので公判では証拠資料として認められない、とすべきである。

#### 2. 採取された鑑識資料の整理・保管・鑑定嘱託

採取された鑑識資料は一覧表にまとめられ、その中から重要度によって優先的に鑑定嘱託される。その判断は、捜査の進行を左右するので重要である。ここで問題となるのが指紋とDNA型のどちらを先に鑑定するかである。これは指紋鑑定で使用する薬品や紫外線照射がDNA型鑑定に不利となり、特に微量のDNA (タッチDNA) の場合は検出不能となるリスクがある。通常は指紋が優先されるが、近年ではDNAを優先される傾向がある。

鑑定嘱託では時系列順、すなわちまず現場資料を鑑定嘱託し、鑑定終了後、被疑者資料を鑑定嘱託しなければならない。また、しばしば先に被疑者資料を持ち込むケースがあったが、この場合は、現場資料のエレクトロフェログラムのピークの中に「被疑者のDNA型が含まれる」と判断してしまう危険がある。そのピークはノイズかもしれないし他人のピークかもしれないのである。指紋鑑定においても現場資料の中に被疑者に一致する特徴点のみを先入観で検出してしまう危険性がある。

このように対照資料の後に現場資料が (または同時に) 持ち込まれる場合は、「鑑定中に現場資料に対照資料が混入したのではないか」、または「意図的に現場資料に対照資料を入れたのではないか」と捏造を疑われることになる。従って、鑑定者は鑑定手順に神経質なるべきで、弁護人としてはこの鑑定手順について質すべきである。具体的には鑑定嘱託の日時を調査すれば、被疑者資料を現場資料の前に行ったケース、または同時に行ったケースが判明する。

(次回へつづく)



ご寄付の御礼 (2019年12月～2020年6月)

2019年12月1日から2020年6月30日までに、

**三原芳一様**

**他6名**

の皆さまより貴重なご寄付を頂戴しました。  
今後もより一層、活動の充実に努めてまいります。  
本当にありがとうございました。

メーリングリストのご登録

センターではイベントや支援活動に関する情報をメールで配信する「えん罪救済センターメーリングリスト」を開設しています。

登録をご希望される方は

ipj2015@outlook.com

まで、件名に「メーリングリスト登録希望」とご記入のうえ、ご連絡先とお名前をお知らせください。

※ドメイン指定等の拒否設定をしている場合は上記のアドレスからのメールを受信できるように設定の上、ご連絡ください。

ご寄付のお願い

私共の活動にあたっては、専門家による鑑定費用、交通費、印刷代、通信費その他の多額の費用が発生します。皆様からのご支援により、より手厚く、幅の広いえん罪事件の支援を私共が行うことが可能になります。どうぞご理解とご協力をお願いいたします。

頂戴しましたご寄付は、当センターのえん罪事件救済支援の活動に使わせて頂きます。

お振込み方法

【ゆうちょ銀行からお振込みの場合】

記号14350 番号82839691

名前 エンザイキュウサイセンター (えん罪救済センター)

【他行からお振込みの場合】

銀行名 ゆうちょ銀行 店番 438

普通口座 四三八店 (ヨンサンハチ店)

口座番号 8283969

名前 エンザイキュウサイセンター (えん罪救済センター)

本ニュースレターについて

本ニュースレターを今後も定期的に発行いたします。

充実した内容にできるよう努めてまいります。

ぜひお読みください。

◆◇編集後記◇◆

まだまだ大変な状況がつづいておりますが、いかがお過ごしでしょうか。前号 No.11 の発行から時間があいてしまいましたが、今号はセンターの支援事件にかかわる声明や、新しくスタートしましたエッセイなど新しい話題です。引き続きましてどうぞよろしくお願ひ申し上げます  
<や>